

人である前に、男でいたい。

クリント・イーストウッド トゥルー・クライム

酒、煙草、女——落ちぶれた新聞記者が無実と信じた死刑囚のためにすべてを捨てる……
今、この時代にこそ輝く究極のイーストウッド美学。

TRUE CRIME

ワーナー・ブラザーズ映画提供

ザナックカンパニー/マルパソプロダクション制作 クリント・イーストウッド “TRUE CRIME” アイザイア・ワシントン デニス・リアリー リサ・ゲイ・ハミルトン
ダイアン・ベノーラ バーナード・ヒル ジェイムズ・ウッズ 音楽レニー・ニーハウス 編集 ジョエル・コックス 美術 ヘンリー・ハムステッド
撮影 ジャック・N・グリーン, A.S.C. アンドルー・クレイバンの小説に基づく 製作総指揮 トム・ルッカー
脚本 ラリー・グロス ポール・ブリックマン スティーブン・シフ 製作 リチャード・D・ザナック & リリー・フィニー・ザナック

www.warnerbros.co.jp

製作/監督 クリント・イーストウッド

オリジナルサウンドトラック:ユニバーサルピクチャー 原作:謝元推理文庫刊

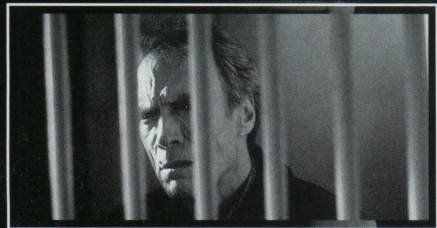


“自分を犠牲にしてさえ、
たった一人で立ち向かう”
そんな男の姿が観たいという欲求を
叶えてくれるのが、
この最新作『トゥルー・クライム』だ。

『ダーティハリー』ことサンフランシスコ市警のハリー・キャラハンに代表される“一匹狼として生きる男の中の男の気概”を一貫して演じてきたイーストウッド。41本目の主演作にして21本目の監督作であるこの映画『トゥルー・クライム』で、彼は深い人間的な味わいを滲ませた新たなヒーローを誕生させた。新聞記者スティーブ・エベレットは、元アル中で女にもすこぶるだらしない。社内に禁



煙令が出ようと煙草は手放せず、愛娘との約束も仕事でついスポカしてしまう。ソツない現代人とはおよそ正反対のアナログ人間だ。しかし、事件の核心を嗅ぎ分ける嗅覚は異常に鋭く、いったんこの話はクサイと思えば、食らいついて離すことはない。その信念と根性は、記者のそれというより“ブンヤ魂”という呼び方こそふさわしい。この男は、誰かを助ける為や正義の為に行動するのではなく、ただ自分の本能に従って動いているだけなのだ。



監督クリント・イーストウッドは、『許されざる者』でアカデミー賞最優秀作品・監督賞を受賞。今や現代屈指の映画作家として世界で認知されている。最近では『マディソン郡の橋』『真夜中のサバナ』と、異色のジャンルに挑戦。演出家としての幅の広さを見せ付けた。そして、もう一つ忘れてはならないのが、『ガントレット』、『ハートブレイク・リッジ／勝利の戦場』のような超一級のアクション大作の名手でもあるという事。今回の『トゥルー・クライム』は、死刑執行という深刻なテーマに触れつつも、刻一刻と迫る死刑のその瞬間というサスペンスに大人のユーモアもちりばめ、あくまでも映画本来の楽しさを存分に満喫させてくれる。

男が惚れる男。イーストウッド美学の集大成。

俳優陣は、死刑囚ピーチャムを演じる「クロッカーズ」のアイザイア・ワシントンを始め、「カジノ」の名優ジェームズ・ウッズ、『バード』のダイアン・ペノーラ、そして記者エベレットの娘役に実の娘フランチェスカと、個性的なキャストを揃え、スタッフはお馴染みのイーストウッド組みでしっかりと固められている。



死刑執行まで、あと12時間。
男の無実を直感した事件記者。
勤と信念だけが頼りの、
たった一人の捜査が始まった。

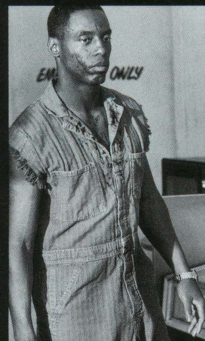
事件記者スティーブ・エベレット（クリント・イーストウッド）は、記者としては一流だが、元アル中で女くせが悪く、妻バーバラ（ダイアン・ペノーラ）との関係は破局寸前。以前勤めていた「ニューヨーク・タイムズ」も社長の娘に手を出して職を追われ、オークランドの地元紙「トリビューン」で編集長を務める無二の親友アラン（ジェームズ・ウッズ）に拾われ、彼のもて働いている。

True Crime

そんな自堕落な生活を送るエベレットにある日仕事が無駄に舞い込んできた。交通事故で死んだ若い女性記者に代わって、今夜12時に処刑される死刑囚フランク・ピーチャム（アイザイア・ワシントン）の心境を取材して来るというものだった。しびれ代役を引き受け、資料に目を通すエベレット。ピーチャム事件とは、オークランドのコンビニでアルバイトをしていた妊娠中の学生が、金を奪われたうえに銃殺されるという、痛ましい事件だった。事件を調べるうち、エベレットはある違和感を覚え始める。そして、それは次第に一つの疑問へと変わっていく。“ピーチャムは無実なのではないか？”と。

獄中のピーチャムと初めて対面したとき、エベレットは彼の無実を確信する。しかし、死刑執行まで、すでに12時間を切っていた。自分の記者としての勤けを信じて、エベレットは事件の真相を追い始めた。

（上映時間127分）



2000年1月ロードショー

《前売鑑賞券発売中》一般券 ¥1500

梅田スカイビルダワーイースト4F

梅田ガーデンシネマ

06 (6440) 5977

河原町三条・京都朝日会館4F

京都朝日シネマ

075 (255) 6760

11/15/11/50/4:25/7:00

*上映日程・時間は劇場にお問合せ下さい